

2023年
ミラノ国際映画祭(イタリア)
外国語長編映画最優秀作品賞
外国語長編映画主演女優賞
(徳竹未夏・清水裕芽)

あきらの
うさぎのおやこ

徳竹未夏 清水裕芽

古川藍 華村あすか 青木玄徳

萩野崇 上西雄大



監督／脚本／プロデューサー：上西雄大

制作：10ANTS 撮影：前田智広 編集：西山秀明 目見田健 照明：齋藤正貴 音楽：川人千慧

主題歌『アキラ』 作詞：上西雄大 作曲：川人千慧 唄：山本莉那

挿入歌『うさぎのおやこ』 作詞：上西雄大 作曲／唄：saika 編曲：康士郎 ピアノアレンジ：あさお

「うさぎのおやこ」製作委員会：株式会社10ANTS Northern country株式会社 身元保証ドットコム株式会社 株式会社大信SE

©「うさぎのおやこ」製作委員会 2024年／日本／カラー／87分

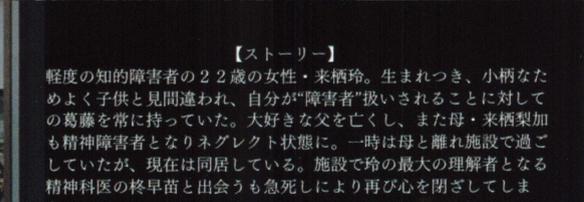


映画『ひとくず』『西成ゴローの四億円』などの上西雄大監督の劇場最新作『うさぎのおやこ』が、ミラノで開催されたミラノ国際映画祭2023 (Milan IFF2023)にて、外国語長編映画最優秀作品賞、外国語長編映画主演女優賞 (徳竹未夏・清水裕芽)を受賞。

本作は、知的障害や発達障害、精神疾患者の心の姿とその周囲に集く闇や悪意、そんな世界の中でもその障害者達を守り救おうとする善意の存在、そして救われる道は必ず存在することを描いた作品。

軽度の知的障害を持ち、小学生にも間違えられる小柄な自分にコンプレックスを抱いている娘と、夫に先立たれるもしっかり娘を育てようと努めてきたが上手くいかず、娘との生活に限界を感じ精神障害者になってしまった母。母子共に障害者であり、心を開くことのできる者が居なくなり、スレ違いながら荒れた生活を送るなか、新たな出会いにより暗闇の中に光が差し始める。

主演は、上西雄大監督主宰の劇団・映像劇団テンアンツから大抜擢の清水裕芽、そして『ひとくず』ではカネマサの母を演じるなど10ANTS作品には無くてはならない女優、徳竹未夏のW主演。共演として、上西雄大は勿論、『ひとくず』での娘を虐待する母親役の演技で注目された古川藍も重要な役どころを担っている。



徳竹未夏 清水裕芽

古川藍 華村あすか 青木玄德

萩野崇 上西雄大

監督／脚本／プロデューサー：上西雄大 制作：10ANTS

撮影：前田智広 編集：西山秀明 目見田健 照明：齋藤正貴 音楽：川人千慧

主題歌「アキラ」 作詞：上西雄大 作曲：川人千慧 唄：山本莉那

挿入歌「うさぎのおやこ」 作詞：上西雄大 作曲／唄：saika 編曲：康士郎 ピアノアレンジ：あさお

「うさぎのおやこ」製作委員会：株式会社10ANTS Northern country株式会社 身元保証ドットコム株式会社 株式会社大信SE

©「うさぎのおやこ」製作委員会 2024年/日本/カラー/87分

【ストーリー】

軽度の知的障害者の22歳の女性・来栖玲。生まれつき、小柄なためよく子供と見間違われ、自分が“障害者”扱われることに対する葛藤を常に持っていた。大好きな父を亡くし、また母・来栖梨加も精神障害者となりネグレクト状態に。一時は母と離れ施設で過ごしていたが、現在は同居している。施設で玲の最大の理解者となる精神科医の柘早苗と出会うも急死により再び心を閉ざしてしまう。

柘の後任にきた若い医師を受け入れられず通院を拒み続けたある日、その医師の後任に新倉麻生医師、恵比寿丈が着任する。梨加はまともな家賃を払えず、遂には退去を求められ、母に見捨てられそうになった玲は、デリヘルバイトに応募してしまう。長く分かれぬまま契約書にサインをしてしまい、お金を受取ってしまう玲。娘から渡されたそのお金に母、梨加は不安を感じる。

デリヘルで撮影することになった玲は、そこに所属するカナと共に逃げる。荷物を取りにマンションへ戻った玲に梨加は「あなたのせいでパパは死んだ」と言ってしまう。決して口にはいけないコトバへの後悔と自分のふがいなきに涙し崩れる母、梨加。一方、部屋を飛び出した玲を恵比寿が追うのだが…。

池袋駅西口・東武百貨店隣接ルミネ池袋8F

〒テアトルシネマグループ

3.22fri シネ・リーブル池袋

03 (3590) 2126 ttcg.jp

梅田スカイビル(空中庭園)タワーイースト3F

〒テアトルシネマグループ

4.5fri シネ・リーブル梅田

06 (6440) 5930 ttcg.jp

烏丸御池駅 南改札直結 新風館B1F

UPLINK 京都

075(600)7890 kyoto.uplink.co.jp